

私の国の産業はいろいろある。たとえば、服や、車や、電気製品等だ。今、世界中でに向けて、たくさんの品物が中国で製造されている。新聞によると、中国の品物が安いから、近年、アメリカの消費者にとって約 7000 億米ドル節約になったそうである。

1950 年代、中国は計画経済の旗を掲げて復興を目指していた。しかし、本当に復興を実現したのは、80 年代以降、鄧小平氏の改革開放という方針であった。これによって中国の自由市場経済はある程度築かれた。その成果も驚くべきものである。ところが、二千年の伝統文化や近代プロレタリア革命など、色々な歴史的な原因で、政府を中心とした経済システムはいまだに根深く存在している。政府が市場に介入する傾向も強ければ、企業（特に国有企業）が政府の支配に頼りにする傾向も強いのである。気まぐれな発展計画と国家基準の応対に任せてお舞いする企業は自主性を欠き、競争力もなかなか高まらない。

改革開放以降、高度経済成長を実現した中国は、世界的金融危機や激化していくグローバル競争など、新たなチャレンジに直面している。これから如何に立ち向かうべきであろうか。日本の通産省にあたる中国国家発展改革委員会をはじめ数多くの行政機関は動き始めた。戦後の日本の通産省に倣い、産業の発展計画を制定したり、企業の経営戦略の指導をしたりする。ここ数年間、中国行政機関の権限は膨大する肥大化する一方であり、市場への介入行動もますます多くなっていく。また最近、『自動車産業振興計画』という政策が打ち出されたのである。色々な細かい規制を作ったようであるが、国家の強制力によって自動車メーカーの合併合併を促そうとする姿勢こそ、政策の中核的狙いである。

製造業だけでなく、中国の農業はもととても有名だ。私は今日本に留学中だが、家の近くのスーパーでは、たくさんの野菜や、果物が中国産だ。中国産の野菜はとても安いから、わたしたち留学生にとってはほんとうに助かる。たとえば、日本産の葱の値段は 300 円ぐらいだが、中国産の葱は 60 円である。何故こんなに安いのだろうか？中国は日本よりずっと広い、そして栽培が簡単だ。また、中国の労働力もやすいからである。

私の故郷は中国山東省の濰坊市だ。濰坊市は山東省の西部の小さい町だ。が、人口は約 9 百万ぐらいで、かなり人口が多い都会である。わたしの故郷の人々は非常に勤勉で、善良で、顧客に対しても誠実で暖かい心を持っていると思う。しかし、これまで濰坊市の経済はまだ他の沿岸部都市に比べ、それほど発達していないかった。ほとんど労働者は出稼ぎに行っていた。それでも、最近嬉しいことは濰坊市の発展も日進月歩で、一日一日変わって行く。市内にはたくさん高いビルが建てられ、高速道路や鉄道などもできた。人々の生活に便利さと豊かさをもたらした。

濰坊市の凧も全国に有名である。きれいな凧は故郷の空を飾り、とても美しく思う。それも濰坊市の文化的な産業のひとつだ、濰坊市は“世界凧の都”と呼ばれている。また、濰坊市の有名な会社もたくさんある。“濰柴動力”や、“福田車”や、“新郎洋服”などだ。そのなかでも、新郎洋服は中国でとても人気がある。デザインもいいし、衣料品質もいいし、それに、ほかのブランドに比べると、安いからである。去年のアフリカワールドカップのイギリスチームの洋服ユニフォームも、新郎洋服が提供されていた。

これから、濰坊市の経済はもっと進歩するだろう。